

平成 29 年度第 1 回市川町総合戦略会議（要旨）

会議名	第 1 回市川町総合戦略会議
開催日時	平成 29 年 8 月 23 日(水) 午後 3 時～午後 5 時 5 分
開催場所	市川町役場 4 階相談室
出席者	委員：楠田一利氏、前田宣博氏、木村重己氏、池田文和氏、石田俊平氏 村上和男氏、岩木和子氏、清水美栄氏、青木 繁氏、小野康裕氏 町 長：岩見町長、藤原副町長、竹内総務課長、内藤課長補佐 藤後係長
会議の議題	1 開会 2 あいさつ ※委嘱書交付 3 出席者自己紹介 4 委員長、副委員長の選任 5 協議 (1) 「市川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要等について (2) 平成 28 年度実施事業及び平成 29 年度事業内容等について (3) その他 6 閉会
会議資料	「資料 1」市川町人口ビジョン概要版及び総合戦略の概要 「資料 2」総合戦略進捗管理シート【K P I 用】 「資料 3」総合戦略進捗管理シート【事業費用】 「資料 4」ちらし等（ゴルフまつり、地域おこし協力隊、創業支援事業補助金、若者定住促進住宅取得奨励金、婚活セミナー、買い物バス運行表）
協議要旨	1 総合戦略の概要について 事務局：「市川町人口ビジョン」、「市川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定までの流れ、それぞれの概要について説明。 ～質疑応答～ 委 員：「人口ビジョン」において 5,644 人と予想されているのを 6,688 人に引き上げようというのが目的であって、その目的のためにこの総合戦略というアクションプランがある。人口減を抑制するという目的を達成するために、どうしたらいいのか、外から人に来ていただくのか、総合戦略の本来の目的を委員の皆さんに意識していただけたらと思う。 委員長：気になるのが計画期間。2015 年から 2019 年となっており、今年で 3 年目となっている。進捗状況について事務局に聞きたい。あと 2 年で仕上げられるのか。そのことも含めて事務局に今の状況

をお聞きしたい。

事務局：28年度、29年度に始まる新たな取り組みもあり、また始まって間もないため現在のところ、転入・転出を比較すると転出の方が多くなっており、自然増減についても出生数はかなり少なく、人口減少に歯止めはかかっている。

この計画は、5年で終わるものではなく、効果を検証して事業の見直しや廃止など随時計画を見直していくものである。人口ビジョン概要版において、社人研の将来推計と目標の人口構成比率を比較していただきたい。人口は減ってはいるが、年少人口や生産年齢人口の比率を引き上げていこうとしている。そのために、現在はあまり多くないUターンの方々を増やして、少しでも人口構成を変えたいと願って取り組んでいる状況である。

委員：総合戦略の基本目標①の中で、市川町は農業が基本産業であるので、⑤⑥の農林業関連を①②に持って来るべきではないのか。策定に向けてアンケート調査を実施されたということだが、どのようなアンケートを実施してどのように反映されたのか聞きたい。

事務局：この基本目標の中の番号は優先順位ではない。市川町は農地面積が多いが、高齢化により担い手不足の問題が生じている。そのため行政としては、新たな就農者に対する支援を行ったり、農業振興地域整備計画の見直しを行ったりしている。

もう1点のアンケートについては、平成27年度、人口ビジョンの策定をするときに、無作為抽出の住民3,000人、転出者300人、15歳～18歳の若者400人を対象に、アンケートを行っている。そのアンケートの結果を踏まえて計画を策定しているが、すべてが改善できるわけではなく、重点を置いている若者世代を増やすために、若者世帯への支援策、子育て環境の整備などを施策に組み込んでいる。

2 平成28年度実施した総合戦略に係る事業及び平成29年度実施事業内容等について

事務局：新たに始まった事業、特徴的な事業をピックアップして説明。

- ・ゴルフクラブ製造業者と連携した商品開発、イベント開催（ゴルフまつり、丸山茂樹プロ監修によるゴルフアイアンの開発）
- ・地域おこし協力隊員設置事業（人材育成に関する取り組み）
- ・起業、創業支援事業（H28年度1件 H29年度2件）
- ・ふるさと納税の推進（H28要綱を改正し、寄附金の使い道を子育て支援を重視したものに。）
- ・鶴居活性化協議会によるさつまいも栽培（H28イベント開催。H29

ふるさと納税にも特産品として提供)

- ・オーガニックタウンを目指した取り組み (H29 学校給食にオーガニック野菜を提供)
- ・土地の利活用 (H29 住宅地の分譲)
- ・若者向け住宅取得等の支援 (H29 からの新規事業。6 件の申請)
- ・婚活イベントの開催 (H28 セミナー、イベントを開催)
- ・遊具の設置 (アンケートで遊具のある公園を求める声が多かったことから、H28 にスポーツセンター内の公園に遊具を設置。H29 ふるさと納税のクラウドファンディングでさらなる整備を予定)
- ・こども園新設に向けた取り組み
- ・公共交通機関の整備 (H28 買い物バス試験運行 H29 買い物バス本格運行、コミュニティバスの見直し)
- ・駅施設の環境改善 (H28 出合橋の側道橋設置 H29 駅前公園の改修予定)

～質疑応答～

委員：表の書き方についてであるが、実績値を書いていたが、目標に対する実績が分かりにくい形になっているので、それも分かるようにしてほしい。平成 28 年度実行状況の部分、「一部、実行した」「計画通りに実行」といった表記になっているが、◎、○、×といった表記のほうが分かりやすいのではないか。トータルの効果として人口の社会増減がどうだったか、ということも合わせて記載いただけたらと思う。

委員長：KPI についての単年目標はあるのか。

事務局：ある。次回は計画値も含め、分かりやすい記載に改善していきたい。

委員：子育て世代にとって、医療費が所得制限なく中学校 3 年生まで無料というのは本当にありがたい制度。Uターンしてきた当時、一番重要であったのは仕事。おたふくかぜなどの助成事業については、広報では掲載されたのかもしれないが私は初めて知った。こういう制度があるということ、可能であれば学校をとおして周知していただけたらと思う。学童保育園についても、市川町はこれだけ子育て世代を応援している、ということにもつながるので十分に PR してほしい。市川マラソンや祭りなど大きなイベントは、近所の方と協力して関わることで、ふるさと愛の醸成につながると思う。マラソンについても参加者が少なくなっているし、多くの人を訪れるせせらぎの湯もあるので、連携してやっていてはどうか。こういうイベントに参加することで、思い出として長く心に残るし、ふるさと愛につながるのではないか。

他の保護者からも話を聞くが、学校の生徒数が本当に少なくなっており、部活動も選べないので、合併を進めてほしいという声をよく聞いた。

委員：人口ビジョンにおいて年齢構成バランスを改善させるということを言われており、これは若い世代を増やすということだと思うが、若者の住宅支援や子どもの医療費の無料化など取り組んでいただいているが、他の多くの市町でも取り組まれているものである。若い人に市川町に住んでいただくためには、何をしていくべきなのか、ということに重点を置くべきではないか。総合戦略の基本的な考え方で「しごと」で「ひと」が集まり「ひと」が「しごと」を作るとあるが、市川町で新たな仕事を生み出すのは難しい。これについては通勤圏内ということでもいいと思うが、住みやすい便利な町であることが必要。不便なところには若者は住みたがらない。そのためには社会基盤の整備はもちろんのこと、宅地造成を大々的に行って呼び込まないといけないと思う。こういうことを重点施策として取り組むべきではないか。

委員長：昨年度も優先順位という話は出ていた。事務局としてはどう考えているのか。

事務局：市川町で独自性のある取り組みは少ないが、かと言って他市町で行われているものを何もしないというわけにはいかない。医療費の無料化、保育料等の軽減、給食費の軽減、子育て世代への経済的な支援に取り組んでいるほか、Uターンを増やすための事業を本年度より開始した。Uターンしてもらうために、農振の見直しを行い、宅地造成についても始めたところ。重点施策として一つの事業を行うのではなく複合的に行うべきだと考えている。今のところは子育ての支援、環境の整備に重点を置いた予算配分を行っている。

さきほど、おたふくかぜの助成についてのPRの話もあったが、住民への周知を図るために、この3年間で市川町が取り組んでいる事業を取りまとめたものを作成し発信していきたいと考えている。

委員長：農振の見直しについてはスピード感を持ってほしい。デジタル化に時間がかかるというふうにあるが、達成するためにどれから手をつけるのか、というスピード感も大事。

委員：ただ家が建っただけではなく、街並みを見に行きたいな、住んでみたいなというように思わせることが大事ではないか。

銀の馬車道 鉦石の道に関連することは、この中に入れられないのか？と思う。駅の歌があるように、歌を作って地域に根付くようなことにつなげられないだろうか。

事務局：これからチラシを配布してPRしていく予定だが、9月17日に銀の馬車道関連の日本遺産認定記念フォーラムを開催する予定である。目的は日本遺産認定の周知、またそれを機に何か取り組めないか、ということと共に考えるきっかけとしていくことである。銀の馬車道関連では昨年度、銀の馬車道公園の整備、屋形橋のランプ灯の復元の2事業に取り組んでいる。

委員長：銀の馬車道というと、屋形や川辺地区など限られたエリアのことと思われてしまうが、銀の馬車道が日本遺産に認定されたことで、市川町にどのようなことが起こってくるのか、ということ町民の方に知っていただくことが大事だということからフォーラムの企画となった。町民の意識の熟成をしたうえで、2020年のオリンピック年を迎え、多くの観光客が来た時に、通過する町にするのか、立ち寄る町にするのか、今年がその分かれ目になるのではないかと考えている。

委員：甘地駅前公園の整備の話が出たが、以前の会議で甘地駅前の開発の計画が出ていたと思うが、小さな部分を直したり触ったりではなく、もっと大きな構想で考えていくべきではないか。またそういう計画が上がっていたように思うが。

副町長：甘地駅の踏切が長年ネックになっていたが、踏切の問題はようやく解決した。次に問題となっているのが駅前の5差路の問題である。長年、改善の要求はしてきたが、甘地福崎線、長谷市川線、前之庄市川線など総合的に改善する必要がある。決して前の計画が消えたわけではない。これから勉強会を立ち上げて最終的な駅前の絵を仕上げていきたい。

委員：この総合戦略では、どういう町を目指すのか明確になっていないような印象を受けた。甘地駅の開発をするのであれば、鶴居駅に関しても言えることであるが、個人的に賃貸マンションを建設して住んでもらう、人を寄せるための駅前開発ができたらな、と思う。

事務局：総合計画においては大きなテーマがあり、「住民の絆を大切に 元気で輝き誇れる“いちかわ”」を大きな目標として掲げており、町の元気を取り戻すための事業、伝統文化の補助金など、各地区の活性化につながるような施策を行っている。

委員：最近ひまわりの花を所々で見かけるようになったが、市川町の推奨作物のように、ひまわりを栽培すれば補助金を出す、というようにしてはどうか。

委員長：個人的な意見ではあるが、ひまわりは枯れたときの姿が美しくない。町花や市花にこだわりすぎて失敗する、というのは園芸業界ではよくある話。もともと地元にある植物を活用してまちづくり

をする方が望ましい。市川町はひまわりで何度も失敗してきているので、その上でするのであれば相当の覚悟がないといけない。

委員：こういった事業については、民間がよく研究しているので、民間の考えを行政の中に反映して行ってほしい。

委員長：お金のかからない公園、芝生公園といった類は、わざわざ播磨中央公園にまで出かけていく方もいるくらい。親が管理しなくてもよい公園、自由に遊べる公園の人気は高い。

委員：親子が集まると親はさまざまな情報交換をしている。予防接種などの情報は広報などでおおいに発信してほしい。保育所、幼稚園や子育て支援センターなどの、親子が出入りする場で発信するなどの工夫が必要ではないか。そういう情報は他市町の親へも伝わっていくので、おおいに発信して行ってほしい。

こども園について、地元説明会はされたと聞いているが、仕事で東川辺地区に行ったときに話を聞くと、地元ではこども園が歓迎されていないようだった。設立されることのメリットをもっと伝えていくことが大事ではないかと感じた。

私の地元では老朽化した保育所しかないので、新しいこども園ができるのは大歓迎。

私立のこども園を見ると、どこも交通整理ができるようになっていく。登園のときと降園のときと車が交わらないように、送迎に配慮することは必要。

経過報告も含めて地元で情報を流すことが大切。

委員長：いろんなことを含めて情報の流し方が難しいと感じる。神河町のようにケーブルテレビがあればいいが、莫大な費用がかかる。伝え方、受け止め方は世代によっても違うので、そういった議論も必要ではないか。

委員：教育現場について伝えたい。少子化の影響を大きく受けているのが高校入試。今後も少子化の加速が予想される。兵庫県下に私立高校は52校あるが、7割が募集定員割れ。

昨今、学力に関係なく、子どもの物事の考え方やとらえ方が幼くなっていると言われている。また発達障害の子どもが増えており、特別支援学校に通う子が増えていることから、全日制の高校の生徒数はさらに減少すると考えている。

市川高校では座禅の授業があり、精神的に安定した学校教育をすることが様々なことに影響を及ぼすと考えられる。学校のいいところを伸ばす、部活動にポイントを置いていくと、少々遠くでも学生は来てくれる。また母校愛も強くなっていく。市川町においても郷土愛が強くなることによって、子どもたちが高校・大学でいったんは町を離れても、帰ってくる子どもが増えることになる

のではないか。

委員長：個人的に思っているが、市川町はゴルフアイアン発祥の地なので、市川高校のゴルフ部で勧めていただけたらなと思っている。ゴルフ業界も応援してもいい、打ちっぱなし場を使ってもらっていい、という声を聞いているので、町やゴルフ産業と関わっていただくことも大事なのかなと思う。是非考えていただけたらと思う。

委員：現在も関わっていただいていると聞いている。

委員長：さらに積極的にかかわっていただけたらなと思う。

委員：私自身は姫路市民であり、市川町で働くようになって2年半。市川の西と東で温度差が違う、ということを感じるし聞くこともある。そこがなんとなくまとまりにくい市川町になっているのではないか。温泉に来られた客が昨年11万人、町への税金（入湯税）が550万になる。温泉を残すことが税収の確保にもつながっている。なかなか難しいが、今年は13万人を目指したい。いろんなPRをできる場が温泉ではないかと考える。こういったチラシ（ゴルフまつりのチラシ）も是非とも置きたい。他市町から大勢来られるので、11万人という温泉を活用していただきたい。

市川町に、あるもの、ないものについて考えた。

あるもの：銀の馬車道、大自然、温泉、オーガニック

ないもの：橋本忍記念館（今あるものは記念館とは言えない。コーナーである。）、公園、信号（自転車、バイクの練習に好都合。）、道路整備（県道34号線は事故が多い）、下水道整備
多可町へ続く県道34号線を元気にしたい。

笠形オーガニックが一生懸命農業をしているが、その隣で農薬散布をしていた。一年目では完全なオーガニックは難しいとは思っているので、3年、5年というスパンで考えてほしい。オーガニックは、食堂ができる可能性もあるし人が呼べる事業だと思う。住民の賛同を得ながら、将来展望のある事業を進めていただきたい。

委員：先に出た日本遺産については、ストーリーが認定を受けたということなので、今後の活用については知恵を出しながら進めているところである。

地域創生の関係では、人口減少の抑制という面と、交流人口の拡大という面がある。365人交流人口が増えれば定住人口が1人増えたのと同じと言われているが、市川町の総合戦略では観光に関する施策が少ないという印象。今後見直す際に、ご検討いただきたい。

住宅用地の確保に関して、人口が減っている中で、女性が社会に出て共働きの家庭が増えていくと考えられる。子育てをするため

には、2人ともが遠距離通勤というのは難しいので、住宅用地も必要であるが仕事も必要なのではないかと考える。そういう点では新製品の開発とか起業があまりないというのは問題ではないか。どういう支援が必要なのか、新製品の開発で言うと、技術的な問題があれば大学と連携するとか、資金の問題があれば銀行と連携するとか、どういう商品をつくれればいいのか分からないということであれば商工会が情報をお持ちだと思うので、そういうことも考える必要があるのではないか。

新規就農について言うと、県では米ではなく施設園芸を推進しており、初期投資への助成を行っている。人気があるので当たるかどうか分からないが、市川町でもPRしていただけたらと思う。

委員：たつの市や赤穂市のような城下町とは違ってなかなか人を呼ぶのは簡単ではない。町外から来られる方にゴルフアイアンの製造の様子を見学していただいたらいいのではないかと取り組んでいる。商工会では今年、丸山茂樹プロ監修によるAWとSWを開発し商品化する。ディスプレイできるスペースがないか、と県と町にお願いに行ったが、そういう資金はないと言われた。

2 その他

事務局： 次回第2回目の総合戦略会議は3月頃に行う予定。

3 閉会